

分 娩 部

1. 施設の整備状況

(1) 現状の概要

1) 設備

分娩台2機、体外受精・胚移植用培養室1室、新生児用インファントウォーマー2機等

2) 人員構成

部長(1)、副部長(1)、講師(1)、助手(5)、医員(2)、研修医(3)、大学院生(4)で対応している。但し産科婦人科と兼併。

(2) 稼働状況、実績

例年分娩数160~180件、体外受精・胚移植50件

流産手術他 小手術50件

2. 点検・評価(平成9年度~12年度)

(1) 効率化

1) IT化

分娩部内に院内のコンピューターを設置している。

2) 部門の統合・廃止

小児科、看護部、産婦人科の各科協力による不妊・周産母子・新生児総合医療センターへの統合を希望。

3) 収益性

年々分娩数、体外受精・胚移植、各種処置は増加している。

(2) 貢献度

1) 院内

院内における分娩・体外受精・胚移植を当施設で行っている。

2) 院外

ハイリスク妊婦の受け入れを積極的に行っている。

体外受精・胚移植を必要とする患者の受け入れ。

3) 地域社会

適宜、お母さん教室や新聞等で妊娠・分娩に対する啓発を行っている。

(3) 高度先進医療、医学の進歩への対応

積極的に体外受精・胚移植を当施設で行っており不妊治療の進歩へ対応している。

(4) 組織の柔軟性(人事交流)

適宜、他院・他施設より分娩部への見学を行っている。

(5) 情報発信度

大学ホームページ等により分娩部の紹介を行っている。

(6) リスクマネジメント

患者さんへの説明は、当施設独自に作製したマニュアルに沿って行っている。

(7) 教育

学生実習において分娩見学、体外受精のための採卵等の見学のため積極的に使用している。

(8) 研究

脱落膜、羊膜を用いた妊娠環境に影響を与える各種サイトカインの働きを研究している。

(9) 学会活動

日本産科婦人科学会、日本不妊学会、日本受精着床学会他、多くの学会で毎年発表している。

3. 問題点とその対策

現在分娩部とNICUが位置的に効率が悪いので、分娩部内へのNICU移転・統合（不妊・周産母子・新生児総合医療センター）が必要。

4. 施設の将来展望

不妊・周産母子・新生児総合医療センターの拡充により、医療・教育の発展が望まれる。